

電気興業株式会社 2023年3月期 中間決算 投資家様向けオンライン説明会 質疑応答 (2022年11月30日 開催)

<質問1>

5G アンテナの需要動向について教えてほしい。

回答：

5G アンテナの受注動向は、各通信キャリア様の設備投資計画が見直されており、需要が停滞・先延ばしとなっており、想定を下回る推移となっている。この背景については、各キャリア様のことであるため、弊社側の想定となるが、1つには通信料金の値下げの影響が考えられる。また、5Gの需要については、5Gを必要とする利用シーンが一般的となるに至っていない状況であることから、5G投資を急ぐ状況が発生せず、その結果、投資抑制に繋がっていると考えている。

この状況がいつまで続くかだが、弊社としてはゆるやかに回復すると考えている。根拠は複数ある。まず1つは、各国内キャリア様は中期決算発表において、通信料金値下げの影響が下げ止まってきていると発表されていることがあげられる。ドコモ様においては、中大容量プランの移行に進むことで、ARPUが上昇に転じたという話もあった。

もう一つは、料金プラン値下げの影響のプラス面になるが、各キャリア様のトラフィック（ユーザーの通信料の合計値）の上昇が続いている。あるいは上昇の傾向にあることだ。これにより、通信容量を増加させる必要がある状況になってきていると考えている。

通信容量は、1つのアンテナに対して、多くのユーザー様が利用されており、1つのアンテナの通信容量を分けて使う形になる。通信容量を増加させるには、アンテナ数の増加、あるいは1つのアンテナあたりの周波数の増加が必要になる。これによりアンテナの新規受注や、周波数増のための置き換えの需要、弊社で言えば主力商品である8周波共用アンテナの需要が強くなっていくと考えている。弊社の商品ラインナップに新たに加えた無線装置の需要も拡大していくことを期待している。

一部では、5Gの需要を飛ばして、6G投資に移行するのではないかとという声もあると聞いたが、弊社としては5G需要があつての6G需要と考えている。6Gはより高い周波数で、より幅の広い帯域によって要領を一度に多く拡大する技術となるため、課題も多い。投資をする側としては、使いにくい6Gを使う前に、5Gを使いきるのが自然だと考える。そのため5Gの投資は必ずあると考えている。

なお5G需要の回復を期待しているが、それだけに頼るのではなく、無線機やレピータといった商材の拡大を積極的に進めることで、収益を上積みしていきたいと考えている。

<質問 2>

自動車部品などで、CO2 排出削減のために加熱しない加工が増えていると思うが、その影響はあるか。

回答：

自動車会社各社は焼き入れの必要のない高強度な金属材料の開発を進めているが、金属材料が出来てはいない。焼き入れの工程は必要。ただし、CO2 削減に対する自動車部品メーカー、自動車会社の取り組みとして、従来は炉体の中で焼き入れをしている。炉体の中で焼き入れは、1-2 時間を火炎にて焼き入れをするため、相当量の CO2 を排出している。それに対し、弊社では高周波による焼き入れを行っている。加熱時間は 5-10 秒の焼き入れとなる。CO2 削減のため、炉の焼き入れから高周波の焼き入れへと変換したいというニーズが増えており、弊社はそのニーズに応えるため日々試作に取り組んでいる。

<質問 3>

ソリューション事業の具体的な取り組みを教えてください。

回答：

新セグメントであるソリューション事業についてだが、まず、当社のコアな技術はアンテナである。弊社は、電波のエリアをどのように構築していくのかに長けている。また、5G 環境に向けて様々なアンテナのラインナップを揃えている。以前より発表している無線装置の受注も開始され、受注獲得の取り組みも行っている。アンテナから無線装置、いわゆるネットワークの構築まで行える技術を蓄えてきた。エリア構築やアンテナ等々のインフラ整備事業は継続し伸ばしていくが、インフラで終わることなく、その先にあるサービスを展開していきたい。

具体的には、工場内のロボット制御の実証実験やカメラによって監視をし、その映像データを、AI を用いて解析し、今後どのように活かしていくのかを検討・実験を行っている。

また当社独自で行うだけでなく、様々なパートナー企業様とのアライアンスを組み合わせながら、新しいサービスを提供する、お客様の困りごとを解決するという想いで鋭意取り組んでいる。まだまだ伸びる分野だと考えている。開示が可能になったタイミングで適宜皆様にご報告していきたい。

<質問 4>

高周波の新領域事業の進捗状況をより詳細に教えてください。

回答：

他社様と協力して複数取り組んでいる。他社様の名前は開示することができないのでご容赦頂きたい。例えば、スーパーマーケットでカットフルーツをよく見かけるかと思うが、その販売によってフルーツの皮がフードロスとして出ている。その皮を弊社の過熱水蒸気発生装置で乾燥させ、家畜等の飼料にするといった取り組みを行っている。コーヒー豆や茶葉の取り組みも行っている。コーヒー豆については、過熱水蒸気発生

装置の中で焙煎を行うことで、賞味期限が長くなったとお客様からの評価も得ている。
産業廃棄物の例だと紙おむつがある。これも相当の廃棄量となっており、過熱水蒸気発生装置で乾燥させ裁断することで、廃棄物の減量化を図る施策を行っている。